

# 北東北 山スキー

T野

2024年3月20日-24日

うまい具合に代休が3日間残っている。有休よりも堂々と休めるやつだ。3月、春分の日を絡めて2日間休むと5連休になる。少雪の今年、GWに雪が残っているかも不安なので、この5日間を死守しようと画策し、希望が叶うこととなった。せっかく5日間もあるので、行先は北東北とした。ただ、天気重視で考えているので、転進の可能性もあり、宿はあえて天候がある程度はつきりする直前まで確保せずにいた。

出発直前、天気もまずまず見込めるので、岩手・青森の山々を中心に巡ることにしていよいよ出発。下記、報告です。

3/19

21時に東川口駅を出発。佐野のいつもの駐車場でI崎さんと合流。東北道を北上し、古川ICで高速を降りて「道の駅おおさき」で仮眠。

## 3/20 網張スキー場・サイドカントリー

メンバー：T野・I崎・A原・T山



初日は、網張スキー場に向かう。現地に着くと、雪が舞い、気温も低く、天気予報も悪いため、無理はせずに森で遊ぶことにする。網張スキー場の西側は気持ちの良いブナ林が広がり、多少天気が悪くても快適に遊ぶことができるのだ。（ただし、スキー場の積雪が100cm以上あることが望ましい。）網張スキー場周辺は「天気が良ければ、犬倉・姥倉・大松倉に登ると快適なオープンがあり、悪ければ森の中で遊べる。」まことに便利なエリアである。

今日はリフトを2本乗り継ぎ、労せず標高差約300mのパウダーを楽しみ、奥産道に出たら、2本目は沢を隔ててもう1本西側の尾根を1200m付近までハイクアップして標高差約350mの快適なパウダーを再びいただく。ところが、ハイクアップの際、ちょっとした事件が・・・僕のスキー板とシールのサイズが違うことが発覚！！板より太いシールで何とか頑張ることになる。「良くやるんだよねえー、複数の板を持っている人は・・・」とはA原さん弁、反省！！

■写真 網張スキー場西側には、標高差約300mに渡りブナの疎林が広がっていて、積雪が100cm以上あれば快適な滑降が楽しめる。



初日は寝不足もあり、明日以降に向けてシールも修理しなければならないのでこれにて終了。盛岡のグリーンハウスに駆け込み、シールカッターを借りて何とか修理完了。明日からの使用に問題ないようになった。グリーンハウスさんには感謝の一言です。

さて、今晚の宿は直前に予約できた青森県黒石にある温湯温泉客舎後藤（¥4000/1泊素泊まり）。盛岡からさらに北上、黒石ICを目指す。

■写真上 築100年レベルの風情ある宿。  
■写真下 本日の軌跡。



ICから約10分、ここはまさに昭和レトロ、否、大正ロマンか？ 築100年レベルの建物は自分たちが子供のころの田舎のおばあちゃん家的な風情のある宿だ。まあ、裏を返せばボロイともいえるのだが……。こういう場所が大好きなA原さんは、この宿をいたく気に入ったようで「いいねえー」を連発していた。一方、1ヶ月前、たまたま山の帰りにこの温泉を訪れたI崎さんとTさんも「まさか、こんなに早くここに泊まる日が来るとは……。！！」とその偶然性に驚いているようだった。風呂は狭い路地を隔ててすぐ対面の共同浴場を利用するシステムになっている。石鹸もシャンプーもないが、お湯は柔らかく温度もちょうどいい。また、ここは「鶴の名湯」と呼ばれていて、足を痛めた鶴が傷を癒したのが始まりという伝説があるらしい。ついでに言うと、中にいる人達が何を喋っているのか全く理解できない。さすが青森である。行き当たりばったりの山スキーは、こういう旅的な楽しみも魅力のひとつだ。風呂から出れば、昭和生まれの昭和の宴会が始まる。泊

っているのは我々だけのようだ。ちょっと贅沢な日本酒と田舎の総菜屋で手に入れた、ここならではの総菜を肴に明日の事を考えながら夢の世界へ落ちていくのも悪くないものだ。

結局、我々はこの宿に2泊お世話になった。岩木山も八甲田も比較的手軽にアプローチできるのが気に入った理由である。

#### ■コースタイム

リフト2本目トップ (9:45) ~ (10:03) 奥産道 (10:23) ~ (11:25) 1200m付近 (11:40) ~ (11:55) 奥産道 ~ (12:07) スキー場ベース



## 3/21 南八甲田・横岳

メンバー：T野・I崎・A原・T山



相変わらず低温傾向は続いているが、天候はいくらか回復したので、今日はパウダー期待で北斜面中心にルートが取れる南八甲田の横岳に向かうことにする。車が1台なので周遊は止めて城ヶ倉大橋からのピストンにするが、それだけだと面白くないので、良さそうな斜面を物色して寄り道をしながら楽しむことにする。

宿から車を走らせ、登山口に到着し、準備しているとA原さんが神妙な顔で「シール宿に忘れた！！」とカミングアウト。まあ、1時間程度のロスで済み、何とかなので再び宿にリターン、再び登山口に戻って8:15出発。もともと早出を心掛けていたので、まだ想定内である。

最初から爽に気持ちの良いブナの疎林が続く、ひと登りすると、さらに傾斜が落ち「登山」というより「散策」という感じの穏やかな森となる。当然のことだが、これだけ傾斜が緩ければなかなか高度は上がらず、それなりに長い。それでもストレスのない登りは楽しい！！

■写真上 イントロは美しいブナの疎林から始まる。

■写真中 ライチョウ！！

■写真下 樹氷原まで登ってきた。

緩やかに登って行くと、やがて森の上に広大な雪原が広がるようになる。あちこちにこの季節ではあまりお目にかかれない樹氷群も点在しここはまだ厳冬の様相だ。こんな広大な白の世界で天候が悪化してホワイトアウトにでもなればまさしくお手上げだが、天候は我らに味方してくれて曇り空ながら視界はバッチリ！！さらに天気



は好転傾向で、雲に覆われていた北八甲田の峰々も徐々に姿を現してくる。まず、田茂谷地・小岳・硫黄岳が山頂まで顔を出し、やがて、高田大岳の山頂まで端正な姿を現わす。さすがに大岳だけはこの山域の最高峰だけあって最後まで抵抗し、山頂から雲が消えることはなかったが、遠くには陸奥湾もはっきり望め上出来の天気である。というか、陽射しがない分、北斜面には最高のパウダーが温存されていて、むしろ今日はこの天気がベストな状態といえる。



どこが山頂だかわからない長い尾根の一番高いところを横岳山頂としたが、標識は見つけることができなかった。櫛ヶ峰が眼前に聳え、次はぜひ、あの山頂まで歩を進めたいと思える実に堂々とした山頂がそこに鎮座していた。

さて、いよいよお楽しみの滑降だ。山頂付近の超緩斜面も雪質が良いので気持ちよく板が走り、あっという間に山頂が遠ざかる。

1250m付近の湿原マーク辺りから北に落ちるイイ感じの等高線を描く尾根がある。記録はないけど、まずはここを滑り降りてみることにする。



■写真上 横岳目指して！

■写真中 北八甲田バックに横岳山頂にて。

■写真下 山頂直下の気持ちの良い緩斜面！！

最初は少し波打った斜面で滑り辛かったが、徐々に快適になり、森の中に入る





ともう最高！！950m付近の沢床まで約300m落したが、記録がないだけに宝物を見つけたような滑降に大満足！！

この沢は意外に彫が深く、厳しい様相を呈していたが、なんとか対岸に渡れば、再び平和なブナの森が広がり、東に緩やかに登って行けば往路の登りトレースに合流。ここから、まっすぐ戻っても良いのだが、地図を読むと新湯沢に落ちるイイ感じの等高線の尾根が北東に延びている。「行くしかないでしょう！！」ということでGo！！



標高差250mほどだったが傾斜、雪質共に最高の尾根でした！！ここも記録のない斜面ですが、酸ヶ湯を正面に見て滑るので、もしかしたら酸ヶ湯から丸見えの斜面なのかもしれません。雪が安定していればお薦めの斜面です。ただ、登り返しの最後がかなりの急斜面、1065m標高点の北側に登り上げるが、ここは雪崩や滑落に要注意、上部はそれなりに高度なキックターン技術が必要なルートだった。登ってしまえば再び平和な森、余韻を楽しむようにブナの疎林の緩斜面を滑るが、これも意外に快適！！あっという間に登山口まで滑り込んでしまった。

穏やかでなだらかな横岳にあって、滑りごたえのあるルートを2本開拓出来て満足感の高い1日が過ごせた。「雪がルートを作る！！」を地

でいく登山は自分が思った通りに楽しめた時は最高の気分になれる。しかも、雪質も申し分ないパウダー！！僕にとって今回のツアーで最高の1日だった。

ところで、せっかく青森に来ているのだから、地元弘前に住むE居チャンに声をかけない手はない。平日は当然仕事だろうが週末はもしかしたら空いてるかも・・・ということで、ダメもとで誘ってみることに・・・。結果、金曜日の夜、酸ヶ湯で合流して一緒に八甲田を滑ることになった。3/23土曜日は天クラもAで期待が持てそうだ。また楽しみが一つ増えた。

■写真上 1250m付近の湿原マークから北に延びる尾根を快適に滑降！！

■写真下 横岳の軌跡。



今日も昨日に引き続き、温湯温泉ライフ、下山した後にくつろげる宿が決まっているのはやっぱり良いものだ。

#### ■コースタイム

城ヶ倉大橋 (8:15) ~ (10:47) 横岳 (11:12) ~ (11:32) 北斜面滑降終了点 (11:41) ~ (12:19) 1100m付近 (12:30) ~ 北東尾根滑降 ~ (12:40) 沢床 (12:51) ~ (13:49) 1023m 付近尾根上 (14:02) ~ (14:10) 城ヶ倉大橋

### 3/22 岩木山・青森スプリングスキー場～長平ルート 1220m付近

メンバー：T野・I崎・A原・T山



予報はまずまず。視界が良くて山頂まで見えるなら登頂重視で、もっとも登りやすい嶽コースへ、視界が悪そうなら、雪質重視で北面の長平ルートを行けるところまで・・・。

そう思い、岩木山に向け温湯温泉を出発。天候は芳しくない。岩木山が見えないのはもちろん、街中でも雪が舞っている。「今日は長平ルートだな」気持ちは決まり、青森スプリングスキー場を目指す。スキー場についても閑散としている。ゴンドラは8:30からなので、1時間近くまったりする。予報では午後から回復するようだが、現状、森の中でしか遊べないレベルの天気だ。

■写真上 雪が舞う中、ブナの疎林を登る。

■写真下 イイ感じの森だ！！



一番のゴンドラに乗り、高度と距離を稼ぐ。ゴンドラ終点はすでに標高920m。視界が悪い中、8:53歩き始める。視界が悪く勝手がわからないル

ートを、勘とヤママップを頼りに登って行くと、途中からわずかに先人のトレースが確認できるようになり助かる。ひと登りすると一度平坦になり、再び登りとなる。いい感じの疎林で、この辺りは滑ったら楽しそうだ。ただ、1200m付近まで登ると樹林がなくなり、一面のホワイト





アウト、この上に行っても楽しい滑降は望めない。午後になれば好転する予報なので、まずは楽しむこの斜面を1本滑ることにする。標高差200mにも満たない斜面だが雪質と傾斜は最高！！素晴らしい滑降が楽しめた。

登って行くうちに晴れるかも・・・と再びハイクアップ。今度は西法寺森辺りを目指して登るが、1200mを越えるとホワイトアウトは相変わらず。ジリジリと登ろうと思っていたが、他のメンバーからストップの声がかかる。確かにこれ以上登っても良いことはなさそう。1220m付近、今回の最高地点だ。大鳴沢と平行に落ちる急斜面を落とす。短い滑りごたえのある斜面だった。ただ、思った以上に傾斜のある疎林で雪崩れても不思議のない斜面だった。そのまま落とすと彫の深い大鳴沢に吸い込まれそうなので少し西寄りにルートを探って、いよいよ逃げ場がなく沢に落ちるしかない場所で滑降終了、標高差約210mの滑降だった。



最後にもう1本滑って終わりにしようと再びハイクアップ。天気は相変わらずなので、登りのトレースと合流して、快適に滑れそうなオープンがあったので1135m付近まで登ってそのオープンで滑ることにする。思った通り快適なパウダー！！今回は今までの3日間全てパウダー！！気温が低めなのが幸いして滑りは毎日快適だ。

- 写真上 時々ガスが晴れ、日本海が望める。
- 写真中 本日の宿、酸ヶ湯。
- 写真下 スキー場上の今日の軌跡。

快適なオープンの後のトレース沿いの滑りも楽しく、あっという間にゲレンデに・・・。  
ゲレンデも雪質が良く薄パウで気持ちよく板が走

る。たまに脇の森に入るのもまた楽しい。ゲレンデは、傾斜は緩いがその分距離は長く、Tさんは「太ももが死ぬ！！」と叫びながら滑っていた。今回滑った長平ルートは1200m付近が森林限界で、ゲレンデトップが920m、視界が悪いと、楽しめるのはこの間の標高差300mほどである。土地勘があればもっといろいろなバリエーションがあるのかもしれないが、視界が悪く初見ではあまり無理もできないので同じような場所を3本滑ったのみでやや消化不良な印象は否めなかった。雪は下部から十分あったので、同じ山頂まで行けない条件でも、スキー場のない登山口から登った方が大きな標高差を楽しめたかもしれない。

さて、今日は酸ヶ湯泊り（¥5500/素泊まり）でE居チャンと合流である。硫黄臭漂う温泉らしい温泉にのんびり浸かり、18時過ぎにE居チャン到着！！いつもの笑顔で、また旨そうな酒を持ってきた！！I崎さんも、一昨日購入した銘酒「田酒」の4合瓶の値段と一升瓶の値段が¥2000しか変わらないのに腹を立て、今日、4合瓶を返品して一升瓶を購入してきた。ゆえに、旨い酒はふんだんにある。楽しい夜が始まった。

#### ■コースタイム

ゴンドラトップ（8:55）～（10:00）1195m付近（10:20）～北西斜面滑降～（10:25）1025m付近（10:40）～（11:15）1220m付近（11:30）～北面滑降～（11:47）1010m付近（12:00）～（12:30）1135m付近（12:50）～（13:20）ゲレンデベース

### 3/23 北八甲田・大岳～小岳周遊

メンバー：T野・I崎・A原・T山・E居



予報通り素晴らしい天気恵まれる！！今までの3日間はどちらかといえば滑りを楽しむ山スキーだったが、今日はまさに「スキー登山！！」スキーの機動力にもものを言わせる登山の実践だ。

■写真上 櫛ヶ峰（左）と横岳（右）をバックに登る！！

■写真下 樹氷と岩木山。





7:15 酸ヶ湯を出発、トレースに従い夏道沿いのルートに登る。今日まで姿を見せなかった大岳が惜しげもなくその全容を見せ我々に「お出でお出で」をしているようだ。最初は風が強く、標高も高いので完全装備で登るが、標高を上げるにつれ、なぜか風は弱まり歩いていると暑いぐらいの気候になる。夏道を仙人岱ヒュッテ経由で登るより、直接大岳に向かった方が早そうなので、我々は1100m付近から夏道沿いを離れ、大岳方面に舵を切る。バックに

南八甲田の山々が望め、一昨日快適に滑り降りた斜面はどこかが気になり、真剣に探すと「どうやらこの辺か」という場所が見つかる。さらに南八甲田の山々を望み、快適そうなルートを物色する。大きな斜面はないが、今の我々にちょうど良いスケールの山域に思え、魅力を感じる。

- 写真上 樹氷と南八甲田の山々と硫黄岳の絶景！！
- 写真中 樹氷原を登る！！
- 写真下 いつか滑ってみたい円錐形が美しい高田大岳！！



最初は雪がうねっていて登りにくい場所もあったが、途中からは特に問題なく高度を稼げ、やがて、仙人岱ヒュッテから来るトレースと合流。途中からクローは使用したが、アイゼンの必要性は感じず、山頂までクローで登る。10:05 大岳山頂着。薄雲が出てきて快晴！！という感じではないが、視界はバッチリで何といっても格好が良いのが円錐形をした高田大岳だ！！まだ未踏なので、いつかは登ってみたい山である。櫛ヶ峰

もここから見ると立派で見逃せないピークだ。東面に綺麗な一枚バーンを持つ硫黄岳や、今日、これから行く予定の樹氷に覆われた小岳の景色も眼前に広がる。さらに南八甲田の山並みの奥には何と岩手山の姿も確認できる。さらに、目を転じれば、これまた今まで姿を見せなかった津軽の名峰、岩木山が西の空に浮いている！！そして北には陸奥湾と青森も街が意外に近い。風もほとんどなく余裕をもって景色を堪能できる。山頂で記念真を頼まれた若者たちが弘前大学山岳部の学生とわかり、E居チャンの身分を暴露して盛り上がる一幕も・・・。

- 写真上 大岳山頂で岩木山と陸奥湾バックに！！
- 写真中 大岳の滑降！！
- 写真下 ジュラシック樹氷と一緒に。

さて、名残惜しいが降りようか。山頂からの滑降は、パウダーではなかったが滑りにくい雪でもなかった。ただ、雪と空が同じ色で雪の凹凸感やちょっとした段差がわからず慎重な滑降が要求された。標高差約 260m滑り、小岳の





登りにかかる。樹氷の隙間を潜り抜けながら登れば問題なく小岳山頂に到着。ここから、南面を滑るか、北面を滑るか悩んだが、雪質重視で北面をチョイス。

風に叩かれてちょっと引かかる雪だったがい



い感じの一枚バーンだったので贅沢は言うまい。1250m付近の沢型まで滑れば、あとは小岳を巻くようにして仙人岱ヒュッテを目指す。「さらに、もう一本硫黄岳！！」という人は今回存在せず、仙人岱ヒュッテからおとなしく酸ヶ湯に向けて滑降。最初のうちはバーンも硬く快適とは言いがたかったが標高が下がるにつれ、雪も柔らかくなり快適に滑れるようになり気持ち良く酸ヶ湯に滑り込むことができた。

今日は、まさしくスキー登山！！八甲田の中でもひととき美味しいところを好天のもとで楽しむことができて充実した1日だった。

■写真上 大岳の軌跡。

■写真下 小岳の軌跡。

さて、明日もE居チャンが同行することになったので、天気予報を見て検討した結果、再び網張スキー場に向かい、姥倉山か大松倉山を目指すことにした。つまり、今日はここから雫石まで移動しなければならない。さらに、今晚の宿も決まっていない。まさに行き当たりばったりの旅だ。

今回通いなれた道（実に3往復した）を黒石ICまで戻り、高速を盛岡まで走り、盛岡のイオンにある利久でちょっと贅沢に牛タンランチして雫石へ。ここでA原さんが鼻を利かせて宿を探し、無事にゲット（いつもながら、さすがである。）暖かい部屋でくつろぐことができた。

#### ■コースタイム

酸ヶ湯 (7:15) ~ (10:05) 大岳 (10:23) ~ (10:41) 大岳・小岳鞍部 (1320m付近)  
 (11:06) ~ (11:42) 小岳 (11:56) ~ 北面滑降 ~ (12:08) 1250m付近 (12:15) ~  
 (13:02) 仙人岱ヒュッテ (13:20) ~ (13:45) 酸ヶ湯

3/24 網張スキー場～小松倉山～大松倉山～北面滑降～網張スキー場

メンバー：T野・I崎・A原・T山・E居



昨日に増して素晴らしい天気だ。「快晴」である。今日は気温が上がる予報だ。陽射しがカンカンに照りつけ気温が上がれば雪は腐る。今日も「スキー登山」を楽しむことにしよう。姥倉山にするか大松倉山にするか迷ったが、結論としては、リフトを使わずに大松倉山に登ることにする。

理由は、まず、姥倉山の場合、リフトの動く時間が遅いので、出発が10時近くになってしまい帰りが遅くなる。さらに、滑降斜面が南面なので気温上昇と

ともに雪が腐ってしまう可能性が極めて高い。

一方、大松倉山は、リフトを利用しないで早出すれば標高差650m程度で山頂に届くのでリフトを待つより早く下山できる。早い時間帯に北面を滑降すれば雪質が良い可能性が高い。といったところか。



■写真上 乳頭山(右)の鋭峰と立派な筑森山。

■写真中 小松倉山の稜線を登る。

■写真下 大松倉山目指して登る。



つまり、今日は早出が大事だ。ということで、7:20 網張スキー場ベースを出発。奥産道を歩き、7:55 小松倉山南尾根に取付く。ここも好ましいブナの疎林で雪が良ければ滑っても楽しそうだ。網張スキー場西側のサイドカントリーと同じような感じだが、サイドカントリーは標高1200mから上は木が密で快適には滑れない。小松倉山南尾根もほぼ同様な雰囲気だが、幅は広くないものの標高1200m以上にオープン斜面が存在し、これを滑れば密藪を避けて小松倉山頂から快

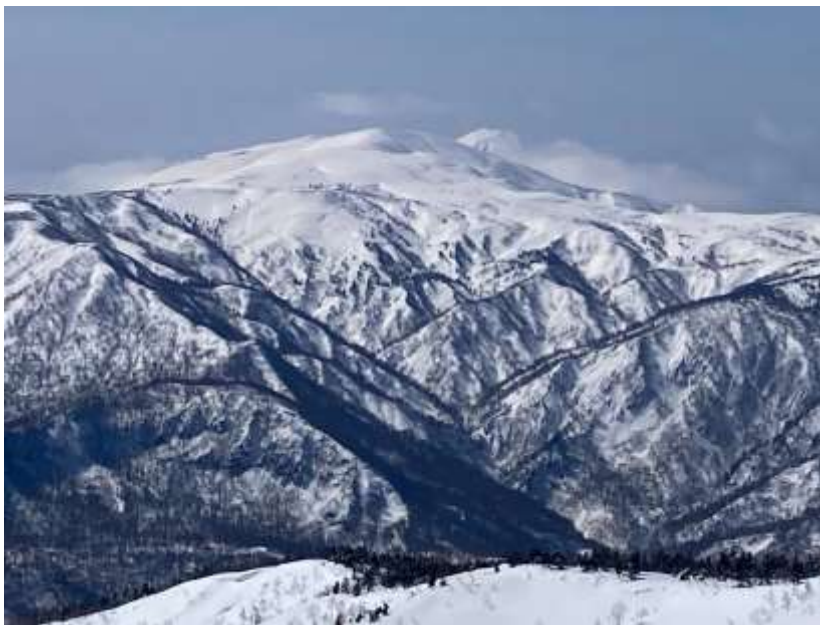


適な滑降が可能だということだ。これは覚えておいても損がないと思う。ただ、今回、スキー場の積雪が150cmだったので、雪の少ない年末年始はその限りではないと思うが。

小松倉山南尾根の登高は快適だ。唯一つの事を除いては・・・。そのひとつとは・・・？



今年初めて経験する「シール高下駄現象」勃発である。まさしく「シール登高養成ギブス」である。意味が分からない人はまだ若い証拠だ。今回のメンバーではE居チャンは怪しいがそれ以外のメンバーはしっかりストライクゾーンである。苛立ち半分に時に板を木にぶつけて雪を落としながら登って行く。しかし、快晴とあって景色は申し分ない。今回印象的だったのは乳頭山だ。こちらから見ると見事な鋭峰で、優しい乳房の印象は



全くなく、登高意欲が湧くピークである。隣の笹森山も立派な山容で美しく、さらにその奥には雲を従え秋田駒ヶ岳の主峰男女岳がひときわ高い。小松倉山に立てば、ダントツの大きさと聳える岩手山が姥倉山・犬倉山・黒倉山などの峰々を従えまさに王者の風格だ。さらに遠くにぼんやりと見える高峰は、早池峰山であろう。もちろん、八幡平周辺の山々も一望のもとである。これから登る大松倉山の南面には最近滑ったであろうシュプールが刻まれていた。



■写真上 岩手山バックに登る。

■写真中 笹森山の奥に主峰、秋田駒・男女岳！！

■写真下 大松倉山山頂にて。

大松倉山にはいったん軽く下ってから取付く。と・・・その時！！大松倉山に向かう稜線に人影が確認できる。それも複数！！「あれれ、追いつかれてしまった！！」途中で会った人と話をしたところ、今日は30分早くリフトを動かしたそうで



ある。シール高下駄に耐え、人力で登ってきたのだが何ということだ。若者ならそれも良い。一人を除いて還暦集団の我々にとっては、やはり楽しんで登りたいというのが本音だ。でも、小松倉山周辺の霧囲気が分かったのでまあいいか。考えようによっては我々が損したのではない。彼らが得をしたのだ！！「そうだそうだ、我々が損し



たわけではないぞ！！」以上、心の中の葛藤の一コマでした。

■写真上・中 大松倉山北斜面の滑降と飛行機雲！！

■写真下 快適なシャウダーを滑る。

大松倉山へのビクトリーロードは眺望に恵まれた気持ちの良い登りである。そして山頂！！多くの人はこの天気誘われて、さら

に三石山まで足を伸ばすようだが、今日帰京しなければならない我々はそんな悠長なことには言っていないので、三石を諦める代わりに、せめて北面のオープンを一本いただこう！！ここは年末に来た時はモジャモジャの藪藪で滑降を途中で中止して右の斜面に逃げたところなの





だが、この時期、見事な面ツル斜面に仕上がっている。昨日の八甲田の事もあり、雪質については大きな期待はしていなかったが、滑ってみてビックリ！！パウダーではないが滑りやすいシャウダー！！実に快適である。一気に標高差約150m落すが気持ち良かった！！



- 写真上 大松倉山北面にシュプールを描く！！
- 写真下 小松倉山～大松倉山周遊の軌跡。

帰路は大松倉山を巻くように戻り、小松倉分岐でトレースに合流。南面の雪はグサグサのストップ雪見え見えの様相なので、森に入っても楽しめないと判断してゲレンデ経由で降りることにする。ゲレンデ合流まではトレース沿いをそれなりに快適に滑り、ゲレンデ内は、時々ストップ雪にバランスを崩しながらもそこは整地されたゲレンデ、まあまあ快適に滑り降りて5日間の締めとした。

最後は、休暇村の温泉で汗を流し、盛岡のイオンのフードコートで打ち上げ、E居チャンと別れを告げ長い帰路についたとさ。

終わってみればあっという間の5日間でした。前半3日間はパウダーを楽しめ、後半2日間は山を楽しんだ5日間でした。超いつものメンバーは気遣いいらずで良いのだが、そこに新鮮な風、E居チャンが入ることで、マンネリからの脱却も図れて今年最長になるであろう5日間が楽しく過ごすことができました。いつものところですがメンバーに感謝です。また楽しみましょう！！

#### ■コースタイム

網張スキー場ベース（7:20～）～（7:55）小松倉南尾根取付き～（9:17）小松倉山（9:35）  
～（10:27）大松倉山（10:51）～北面滑降～（10:59）1239m付近（11:20）～（12:00）1300m付近（12:11）～（12:30）網張スキー場ベース